

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成28年 8月 第186号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

障害者が居ない社会は、永くは続かないのです！

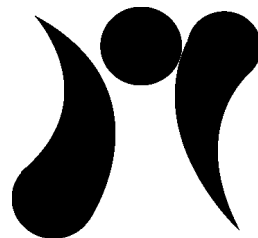
7月26日の未明、神奈川県相模原市で障害者施設が襲われ、19人が殺害され、26人が重軽傷を負う事件が起きました。犯人は、障害者の存在を否定する、ヒトラー張りの『いびつな思想』を持つ26歳の元職員です。約50分間で45人を殺傷して警察に自首しました。2月に衆議院議長宛に書いた手紙に添って実行した、その確信的・計画的犯罪に愕然とします。

しかし今、現実社会の『世間の常識』においても、障害者は必ずしも歓迎される存在ではない様に思えます。老いる人に対して、要介護にならない努力を求める施策があり、出生前診断で胎児がダウン症と確定した人の94%が中絶をします。特別支援学校を視察した或る県の教育委員が、障害児が増えない施策を希望し、障害児を産んだ母親の苦悩は数十年前と相も変わらず、今も「母子の無理心中」が生じます。テレビでは健康サプリメントのコマーシャルが沢山流れ、「老いても健康でこそ幸せ」と健康志向一辺倒の『世相』です。

日本では、災害や病気・事故に対して『予防・予知』を重視して「未然に防ぐ努力」を強化し、災害防止・犯罪防止・疾病予防・介護予防・いじめ防止等々、様々な『事前防止策』に万全を期して、事故や災害の無い安全な生活の実現を目指し、『病気や事故や災害は必ず起こる』事を前提とした『準備と覚悟』を疎かにしてきました。

一方で人間社会は、突然変異や自然災害など『想定外の不規則な変化』を『柔軟に包み込んで』変化・発展して、『多様で柔軟な持続可能な社会』を創って来ました。日本は災害列島とも云われ、昔から地震や津波、台風や河川の氾濫、火山噴火や火砕流など、全国各地で様々な大規模な災害に襲われながらも、人は逞しく生きて社会を造り、引き継ぎ、歴史を続けて来ました。

自然災害で無残に死ぬ人も、老いて要介護になる人も、障害を持って生まれる子供も共に、社会が柔軟に受容れてきた結果が今に至る歴史を創ったのであり、『多様性・柔軟性』を象徴する存在です。人間社会が持っている『多様性・柔軟性の原点』は、誰もが望まぬ『自然災害』であり、『老いと死』であり、想定外の『障害児の誕生』であったのだと思います。(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

人は、『望まぬ事』も、『想定外の事』も、否応なく受容れざるを得ない現実を直視し、人間特有の柔軟な『社会性』を身に着け、豊かな『人間性』を育み、逞しく生き抜く『思想』を創り上げたのです。人間だからこそ達成できた、豊かな『文化』を生み、輝かしい『文明』を育んだのです。

「諸行無常」、「絶えず変化して止まる事の無いこの世」で、一人ひとりの限りある命を繋ぎ、更に永く歴史を続ける為に、『多様性・柔軟性を象徴する人達』を柔軟に受容れる社会でありたい、と切に願います。

かつてナチスドイツは、20万人とも30万人とも云われる障害者を虐殺した後、数百万人のユダヤ人の虐殺へと踏み込んで行きました。ナチの様な単一価値で統一された社会は硬直化して、『永くは続かない』のです。

人は、『個人的願望に添って』生きると同時に、『社会的使命を帯びて』生きています。個人的には「障害者に成りたくない」と考えても、『障害を持って生きる命』は、人間だけが持つ『多様で柔軟な思想と人間性・社会性』を伝える重要な『社会的使命』を帯びています。介護現場には『社会を構成して生きる人間』にとって最も重要な、『思想・人間性・社会性』が潜んでいます。

健康を望む「個人的願望」の裏側に、自然の摂理に添って『老いて死ぬ社会的使命』が潜んでいます。持てる力の『ベストを尽くす』障害者は、社会を構成して生きる人間の『最も普遍的な生き様』を示しています。介護職は、その『使命と生き様』を支える極めて重要な『価値ある職業』なのです。

今、介護現場は人員確保に苦慮しています。障害者や認知症のお年寄りの生活を支える「介護・福祉職」が、世間で最も「不人気な職業」になってしまいました。その真っ只中で殺人事件が起こり、介護現場の先行きが心配です。障害者と世間との『壁が、溝が』これ以上高く深くならない事を願い、今まで以上に、『壁や溝を取り払う努力』が必要ではないか、と考えます。

介護現場が、障害者や要介護高齢者の『社会における存在価値』を明確に示し、その『社会的使命』を支え、『多様で柔軟な持続可能な社会』への途を拓く『前線基地』であって欲しい、と切に願います。

『この子らを世の光に』の言葉から半世紀以上が過ぎました。職業として介護に携る人には、世間の人が無気なく使う「老いても健康でこそ幸せ」という言葉の裏側に潜む、『障害者を傷つけ、存在を否定する側面』に気付く『鋭い感性』と『豊かな人間性』を持って欲しい、と願います。

『老いて認知症になるお年寄り』も、『生れながらに障害を持つ子』も、人間社会が永く歴史を続ける為に『最も重要な社会的使命』を持つ存在である事を、『介護現場から発信』し、『介護の社会的価値』を高め、『介護離職』に歯止めを掛けたい、と心より願います。2025年以降の社会で想定される課題の解決に向けて、凶悪な事件が起きた今こそが正に、その最後の『好機』だと思えてきます。責任重大です。

新人職員より



せいりょう園での一年を通して

地域密着型特養 介護職員 吉田貢平

せいりょう園でお世話になり一年以上経ちました。私は大学を卒業して、平成27年4月に、せいりょう園に入社しました。昨年からは三ヶ月毎に地域密着型特養、グループホーム、ユニット型特養、小規模多機能居宅介護の事業所を一年通して回らせて頂きました。

最初は地域密着型特養で三ヶ月間過ごしました。今まで介護の仕事の経験はなかった為、ベッドから車イスへの利用者の移乗、オムツ交換や食事介助なども全くしたことがなかったです。その為、わからないことが多かったです。しかし、先輩職員の指導で徐々に覚えて介護の基礎を学ぶことができました。

グループホームでは、その日の段取りを職員同士で話し合い、決めていきます。例えば入浴介助の順番で、ちょうどその日に行事などのイベント事が重なった場合、行事を先に行ってもらい、入浴を後にずらします。職員同士で判断して、その日のスケジュールを一つ一つ選択して決断していくことを学びました。その他に、ベッドから車イスへの移乗時に使うトランスファーボードの使い方を教えてもらいました。介護者の負担を少なくかつ安全に利用者を介助することができる為、大変勉強になりました。今後も有効に扱えるよう努力していきたいです。

ユニット型特養では利用者に寝ていただく時に、足と足の間に拘縮を防止するためにクッションを挟んだり、マヒ側ではなく健側から移乗することに対して深く意味を考えずに行っていました。しかし、それには利用者一人一人に対して大切な意味があり、なぜする必要があるのか理解する事が大事だと学びました。これからも、なぜそうする必要があるか考え、理解して介助を行っていきたいです。

最後の小規模多機能居宅介護の事業所では、在宅サービスの為、オムツやパット、使い捨て手袋といった物品等、利用者一人一人にお金がかかるものなので、より物品に対するありがたさを感じることができました。毎日一軒一軒訪問して、身の回りのことをお手伝いさせて頂く時に利用者の方から「ありがとう」と言われた時はうれしく思いました。

一年通して行事も沢山あり、特に夏祭りが印象に残っています。担当の利用者に付き添って、色々な屋台や盆踊りを一緒に見て回り、その利用者の笑顔を見た時、私もうれしい気持ちになりました。

一年が経ち再び地域密着型特養で働いています。まだまだ介護の仕事の経験は浅いですが、今後も一つ一つ勉強して頑張りたいと思います。

【せいりょう園空き情報 平成28年 8月17日現在】

- ・サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」：
A(19.07㎡) 9室、C(24.67㎡) 4室、D(25.16㎡) 2室、E(25.80㎡) 2室
- ・サービス付き高齢者向け住宅「リバティかがわ」：A(33㎡) 3室、C(39㎡) 1室
- ・ケアハウス：空きなし（バス・トイレ・キッチン付 24㎡）
- ・グループホーム：空きなし
- ・グループホームまどか：空きなし

【問合せ】 せいりょう園 TEL(079)421-7156/(079)424-3433

地域密着型特養より



せいりょう園に入職してから現在まで

地域密着型特養 介護福祉士 松尾 繁

私は平成27年の7月から、せいりょう園で働かせて頂いています。配属先は地域密着型特養で、入職から現在まで特養でお世話になっています。

せいりょう園に入職する前は、デイサービスで勤務をしていました。そこでは比較的自立度の高いご利用者を相手に、リハビリのサポートを行ってきました。

特養で働くことになってから当初、私はこれまで行ってきた介護との違いに戸惑いを感じました。なぜなら私はおむつの当て方や食事の介助の仕方もよく分からない状態だったからです。しかし、そんな私に先輩職員の方々は丁寧にケアの仕方を教えてくれました。それはただ仕事のやり方を説明するだけではなく、「なぜする必要があるのか」といったケアの意味をきちんと伝えてくれたので、とても有意義なものでした。

またある日、寮母室で私が難しい顔をしていると先輩職員の方々が、「仕事には慣れてきましたか？」と声をかけてくれました。私は、「介護技術が未熟でまだまだ慣れないですね」と話しました。Tさんは、「そうですか」と静かに何度かうなずいただけでしたが、そのやり取りに救いを感じたのを覚えています。「たとえ直接的に何かを解決することにはなくても、耳を傾けてくれる人がいるだけで救われた気分になるのだな」と分かり、自分もご利用者に対してそのような姿勢で向き合えたらいいな、と思いました。

10日程が経ち、少し業務に慣れてきた頃のことです。朝、出勤すると一人のご利用者の方が亡くなられていました。私は、その方の告別式に参加しました。これまで私は人の死に直接触れ合う機会がなく、人が亡くなられた姿を見たこともありませんでした。とてもショックを受け、複雑な感情が込み上げてきました。ご家族をはじめ、他の職員やご利用者と一緒にその方を見送りました。



平成28年7月9日(土) ヴァイオリン・リサイタル



「木野雅之ヴァイオリン・リサイタル」が、リバティかこがわで行われました。今年で23回目を迎えます。今回はピアノに多川響子氏を、お招き致しました。

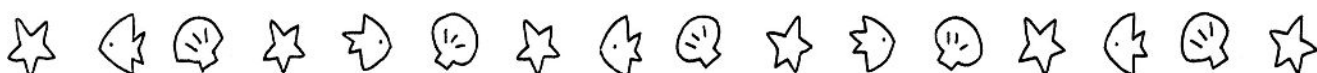
約90分間のプログラムで、アンコールを入れて9曲演奏して頂きました。アンコール曲「旅愁」では、演奏と共に口ずさむ観客が多いらっしゃいました。

毎年素敵な音楽を聴かせて頂き、有難うございます。

入職して3ヶ月がたち、夜勤を任されるようになった頃、初めてご利用者が亡くなる瞬間に立ち会いました。その方はYさんという女性で、私が入職したばかりの頃は車椅子を自操され、施設内を元気に移動されていました。また、大変よく気をつく方で、私が髭を生やしたり剃ったりする度に、笑顔で何かコメントをくださいました。そんなYさんが急に身体の痛みを強く訴えられるようになりました。ある晩、私が夜勤をしていると、24時頃にYさんからコールがあり、身体が痛いのか顔をしかめながら、「トイレに行かせてほしい」と希望がありました。これまではYさんのトイレを介助する時には、職員一人で行っていましたが、その夜は職員二人でYさんを介助しました。朝になってYさんを訪れるとYさんは弱々しく笑いながら、「昨日は寝とったんやろうに、すまんだな」と言いました。その時、私はYさんが笑ってくれたことに安心して、「Yさん大丈夫だな、良かった」と思っていました。しかし、それから間もなくYさんの状態はどんどん落ちてきて、2週間後には亡くなられてしまいました。Yさんが亡くなる晩も私は夜勤を任されていたのですが、不慣れた夜勤でいっぱい、しっかりとYさんの死に向き合うことができず、申し訳なく思っています。亡くなってしまうくらい状態が悪いのに、Yさんが私に笑いかけて、気遣ってくださったことや、最後までしっかりと自分の意思を伝えようとしているYさんの姿を見て、人間の底力を感じました。

せりりょう園で働いている間はそれからも、人の死やその過程に向き合う機会が増えてきて、私にとってそれらは身近なものになりました。ある日、突然亡くなってしまったり、これまで出来ていた事が、だんだんと出来なくなってしまっているご利用者を目の当たりにして、お年寄りの命や活動の儂さと同時に、強さや重さを感じることがあります。

私が、ご利用者に対して何か出来る事は、とても限られているのではないかと思います。それでも人の死や命の重さを感じながら、ご利用者との関わりを大切にして、ケアに励みたいと考えています。



厨房だより

管理栄養士 田村愛弓

真夏のうだるような暑さも弱まり、徐々にではありますが過ごしやすい気温になってきました。夏バテになっていた方も、少しずつ体力や食欲が戻ってきたでしょうか。そんなときに食べていただきたいのが、夏が旬のモロヘイヤです。モロヘイヤは野菜の中でも栄養成分が豊富で、ネバネバ成分が胃の粘膜を保護して、消化不良や食欲不振を治してくれます。夏に弱った胃を癒すには、とても効果のある野菜なのです。モロヘイヤのおいしい食べ方は和え物の他に、豆腐や納豆のトッピングにしたり、スープや味噌汁などに少量入れて食べるというのもおすすめです。モロヘイヤは青臭みやクセはあまりないので、いろいろな料理に入れて試してみてください。よく刻んでごはんにかけるとろろ丼も、簡単でおいしいです。

もうすぐ食欲の秋です。おいしい食材を楽しむために、夏に疲れた胃を癒しましょう。





「りょうえんカフェ一番星（認知症の人とお茶するカフェ）」

認知症の方と一緒にお茶を飲みながらお喋りする「りょうえんカフェ一番星（認知症の人とお茶するカフェ）」を開きました。

今回「語ろう会」参加者は10名、グループホーム入居者10名、特養の入居者2名、ケアハウス入居者4名、職員5名、総勢31名が4テーブルに分かれてカフェを行いました。

利用者は車椅子の人、杖を使う人もおられ、職員が案内してテーブルごとに席に着くと早速メンバーの方から注文を聞かれ「コーヒー」「紅茶」「ミルクは？」「お砂糖は？」のやり取りからカフェが始まりました。

利用者は、馴染みの職員とは違うメンバーさんとの《時と場の共有》を大いに楽しんでおられました。昔の思い出話をする方、笑顔で話を聞くだけの方・・・

終了後、参加された地域の方（主に男性）より、様々な感想を頂きました。

「お茶を提供して、『さぁ話しましょう』と言われても、何を話したらいいのか分からなくなり、言葉が出てこなかったです。」

「『朝はご飯？パン？』『おかずは？』など具体的に聞いてみたり、話を途切れさせないようにと思ってしまった。」

「せっかく来たのだから、特定の人だけが話すのではなく、口数の少ない人にも一言か二言ぐらい話してほしい。参加した人には満遍なく話をしてほしいと思ってしまいます。」

「つらかった昔話を笑顔で語ってくれた人が居たが、聴く側にすれば悪い話と感じてしまい、つっこんで話を聴いてもいいのだろうかと思ってしまいました。」

一方、女性参加者は介護経験のある方もおられ、お茶を出すことも日常的であり、利用者も女性が多い為か、ごく自然に話に花が咲いていました。

認知症の方との対話の中で、確かに辻褄が合わないことは、よくあることです。しかし、そこだけに注目しないでほしい。本人は認知症や老化によって、今まで行えていたことが出来なくなりますが、そんな自分の状態を受け入れて、自身の力を発揮しています。そこを理解して接してほしいのです。私達の主観で物事を捉えないで頂きたいと思います。

認知症の方は、今までの人生で培ってきた本人の感性・感覚を生かして周囲の人に接します。本当に今の自分が出来る事を素直に表現して下さい。だから私達が、「何かしよう」「何とかしよう」と考えなくてもいいのです。唯、関心を持って、傍に居て時間を共有することから始めてください。

お茶を飲みながら認知症の方と接すると、何かを『知る』、『学ぶ』、『感じる』機会となる筈と感じます。心が豊かになるかもしれません。お金で買う事の出来ない、きっと大きな贈り物が潜んでいます。

認知症の方々より学ぶ「りょうえんカフェ一番星」を、今後も広げていきたいと考えます。

（老人介護支援センター 入江良行）

平成28年7月19日(火) ビーンズ紙芝居



ケアハウスにて

毎月、第3火曜日 15:30～ ボランティアグループ「ビーンズ」さんより、紙芝居を披露して頂きます。

せりょう園内の特養、グループホーム、小規模多機能ホーム等、様々な場所で行われます。

今月は、ケアハウスの入居者に2つの紙芝居をして下さいました。

紙芝居の合間には、歌を唄ったり、体操を行う等、毎回趣向を凝らして頂き、有難うございます。



平成28年7月22日(金) 流しそうめん



デイサービスにて

梅雨も明け、蒸暑い日が続く中、デイサービスの昼食に流しそうめんを行い、利用者の皆さんに大好評でした。上から流れてくるそうめんを必死で掴もうとするが、流れてしまい食べられない方もいらっしゃいました。

その一方では、上手に箸で掴み、もくもくと食べられる方もおられ、普段食が細い方でも「今日はお腹いっぱい食べたわ!」と言う声があがり、皆さん大喜びでした。

一足早く、夏の風情を満喫されました。



平成28年7月27日(水) りょうえんカフェ一番星



アトリエにて

初めてボランティア活動を行うチーム「MBI」の6名の皆さんが、ユニット型特養の入居者・家族と共に、お茶を飲みながら談笑されました。

カフェを始める前は、緊張と戸惑いの表情でしたが、終わる頃には「1時間が、あっという間に過ぎました。」「楽しい時間だった。」「皆さん、若い。逆に元気をもらいました。」と各々に「良かった」との感想を頂きました。次回、新たなメンバーも誘い、カフェに参加したいとの意向を聞きました。

平成28年7月30日(土) 第31回 せいりょう園 納涼盆踊り

毎年天候に恵まれ、開始時間の18時頃になると、強い日差しも弱まり、心地よい風が吹き始めました。皆さん楽しみにしていました。

朝は7時から…ボランティアさん・職員と共同でやぐらの組み立て。

お昼を過ぎて、3時ごろから屋台運営のボランティアさんが準備に入り、屋台の焼き鳥の焼ける匂いが漂ってきて、徐々に祭りムード。

野口太鼓の子供達が打つ太鼓で、浴衣姿の婦人部の皆さん、車椅子の利用者等々、色々な方々が輪になって盆踊りを、其々想い想いに踊られていました。

今年は、加古川を中心に活躍されている演歌歌手の晴香うららさんや加古川南高等学校合唱部の生徒の皆さんの参加があり、歌あり踊りあり。

せいりょう園職員企画では、今話題の『エビカニクス』を踊り子供からお年寄りまで世代関係なく、踊りを楽しみました。自然と体が動くものですね〜♪♪

皆さん外へ出ると、いい顔されていました。屋台で買ったたこ焼き・焼き鳥・かき氷、少し大きめの唐揚げ等…を手を持って、食べながら踊りを観たり、雰囲気だけで充分満足される方、一時間半、と短い時間でしたが貴重な時間を過ごすことができました。



加古川南高等学校の合唱で盆踊りが始まります



晴香うららさんの生唄



「エビカニクス」を披露



周囲の皆さんも一緒に踊ります